

## 東京理科大学入学式 理事長祝辞

学校法人東京理科大学を代表いたしまして、一言、お祝いを述べさせていただきます。

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。東京理科大学設立以来、最多となる、56,566人の本学志願者の中から、見事合格を勝ち取り、この日を迎えられることは、偏に皆さんの努力の賜物であり敬意を表します。また、ご列席のご父母の皆様におかれましては、お子様が、無事、難関を突破し、本日、ここに入学式を迎えられましたこと、さぞ、お喜びのこととお祝い申し上げます。

本日、ここにお集まりの皆さんは、色々な想いで、この場におられるのではないのでしょうか。努力して本学を目指し、念願かなって入学された方、また、希望する学部ではなかった、或いは希望していた大学ではなかった、という方もいるかもしれません。しかし、皆さんの人生の中で、大学に入ることが目的ではないはずです。大学に入学することは、ゴールではなく、皆さんの将来の夢の達成に向けた通過点に過ぎません。

皆さんの将来は、選んだ大学も勿論大切ですが、入学した大学で、どのように4年間、また、その先の大学院で、学生生活を過ごすかにかかっているのです。その点で、皆さんの入学した東京理科大学は、明治14年の創立以来の実力主義の伝統と、皆さんの先輩にあたる卒業生の活躍により、“入学後に力の付く大学”“実力のある卒業生を輩出する大学”として社会から高い評価を得ており、皆さんには、今後の頑張り如何で、無限の可能性が広がっています。

最初に、これから大学生活を始める皆さんに、大学で学ぶ意義について、お話ししたいと思います。大学で学ぶ意義とは、結論から言えば、将来、自分の夢を実現するための力を養うことだと言えます。大学での学びを通して、専門知識や技術を身につけ、自分の夢を実現するために社会へと巣立っていくわけです。ただ、夢を実現するには、単に学問を修めて知識や技術を身に付けただけでは、十分ではありません。

では、他に何が必要かという点、社会で生きていくための社会人としての基礎力を養うことが欠かせません。人間的な成長の中には、柔軟な思考を持つことも含まれています。ご承知のように夢を実現することは、そう簡単ではありません。

皆さんの先輩の立場から言わせてもらえば、人生では思うようにいかないことの方が圧倒的に多いのです。将来、“自分はこうなりたい”と強く思い描いていても、残念ながらそれが叶わないこともあります。

論語に「知者は惑わず、仁者は憂えず、勇者は懼れず」という言葉があります。皆さんには大学在学中、将来にわたって惑うことのない、学問や知識、物事の道理をしっかりと学ぶことに加え、課外活動や、その他の経験によって、社会で生きていくために必要な、“人を思いやる心”、また、自分の意思を貫くことのできる勇気を身に付けてもらいたいと思います。

二点目は、教養の重要性です。国際化が叫ばれている現代において、日本のビジネスリーダーの、“科学の知見を深めた教養”の不足が指摘されています。グローバルビジネスの現場で必要なのは、やはり人間力です。最近、海外においては、研究者は当然として、企業の経営者でも、総じて、ドクター、マスター等の学位を所持しています。

本学においても、多くの学生が修士課程に進学し、博士課程への進学者も増えてきており、本学の卒業生が、専門知識でひけを取ることはないかと思いますが、大学卒業後、社会を牽引することになる皆さんには、是非、“豊富な科学の素養を有した教養”を身に付け、世界レベルの教養人に成長してもらいたいと思います。

ではなぜ、教養が必要なのでしょう。それは、身につけた教養が、人生においてわくわくすること、面白いことや楽しいことを増やすためのツールだからです。様々なことを知り、それによって世界に視野が広がり、人生が面白く完成したものになる。自分の頭で考えて、本当に納得いく答えを出し、より良い社会をつくるために行動に移す。さらに、人生のPDCAサイクルを回していくためのツールとなり、皆さんが社会で生きていくための指針となるからです。

三点目は、大学での過ごし方です。これから大学生活が始まりますが、皆さんが入学した東京理科大学は、豊かな人生を送るために必要な、専門知識、研究力、それを統合する力を身に付けることが出来る大学です。先生方は、日々、研究に取り組み、我が国トップクラスの研究業績を上げています。一方で、教育の質も向上させるべく、皆さんに提供する教育課程、カリキュラムについては常に見

直しを行い、最善のものが用意されています。

しかし、大学生活を本当に実りあるものにするためには、皆さん自身が、積極的に行動する姿勢を持たなければいけません。大学生活は、高校までとは違い、大きな自由が与えられています。逆に言えば、大学という場では、自分で動かなければ何も始まりません。これから始まる大学生活を、有意義なものとするか否かは、皆さんの行動次第です。そして、大学生活をどのように過ごすかで、その後、長く続く人生の方向性も決まってくるのです。

最後にもう一つ。古代ギリシャの哲学者ソクラテスは、「無知の知」の大切さを説きました。私は、“知らないことが多すぎる”“世界は広い”という自己認識からスタートする。その謙虚な姿勢こそが皆さんの成長につながるのです。

自身の無知を知り、多くのことをどん欲に吸収すべく、積極的に行動してください。大学において修得した知識、課外活動等を通じて得た友人、その他、学生時代の経験の全てが、皆さんの糧となり、将来にわたる自身の拠りどころとなります。

皆さんが健康に留意され、今日の想いを忘れることなく、有意義な学生生活を過ごされることを祈念して、私の祝辞といたします。

本日は誠におめでとうございます。

平成30年4月9日  
学校法人 東京理科大学  
理事長 本山 和夫